

第39回鹿児島県漁村青壮年婦人
グループ活動実績発表大会資料

平成5年1月13日

於 鹿児島アリーナ

会 次 第

1 開 会 日程説明 12:30～

2 活動実績発表

(1) 与 論 町 漁 協	竹波 清志
(2) 西之表市漁協婦人部	秋山 多喜子
(3) 高山町漁協青壮年部	谷山 久男
(4) 長島町漁協青壮年部	吉川 秀記
(5) 江口漁協青壮年部	久木留 秀行
(6) 久志水産振興会	高尾 義人

1人につき20分(発表15分,質問5分)

(休憩)

(アトラクション)

3 審査員結果報告 15:30～

4 感謝状及び記念品授与

5 閉会のことば

6 万歳三唱

7 閉 会 ～16:00

審 査 員

鹿 児 島 大 学 水 産 学 部 教 授	税 所 俊 郎
鹿 児 島 県 漁 業 協 同 組 合 連 合 会 専 務 理 事	中 村 幸 雄
鹿 児 島 県 漁 業 協 同 組 合 連 合 会 専 務 理 事	矢 田 保
鹿 児 島 県 信 用 漁 業 協 同 組 合 連 合 会 専 務 理 事	福 留 正 志
鹿 児 島 県 林 務 水 産 部 次 長	大 久 保 博 志
鹿 児 島 県 林 務 水 産 部 林 務 水 産 課 長	徳 田 穰
鹿 児 島 県 林 務 水 産 部 水 産 振 興 課 長	三 木 修 一
鹿 児 島 県 水 産 試 験 場 長	武 田 健 二
鹿 児 島 県 農 政 部 經 営 技 術 課 主 任 生 活 改 良 専 門 技 術 員	加 藤 美 代 子

目

次

- タチウオ釣り漁業を開発して 1
与論町漁協 竹波 清志
- 私達の魚食普及活動 10
西之表市漁協婦人部 秋山 多喜子
- 高山の魚類養殖 14
高山町漁協青壮年部 谷山 久男
- チームワークで花嫁さん獲得 19
長島町漁協青壮年部 吉川 秀記
- 組合せ漁業による経営安定に取り組んで 28
江口漁協青壮年部 久木留 秀行
- 漁業後継者としてマダイ1本釣り漁業に取り組んで 34
久志水産振興会 高尾 義人

タチウオ釣り漁業を開発して

与論町漁協 竹波清志

1 地域及び漁業の概況

私達の漁協がある与論島は、鹿児島県の南端に位置し、南方海上 28 km には沖縄本島を指呼の間に望むことが出来ます。周囲 22 km、面積は 20.8 km²の小さな島ですが、東は太平洋、西は東シナ海に囲まれ「東洋の海に浮かぶ1個の真珠」と称され、観光地として脚光を浴びています。産業は、サトウキビ栽培のほか園芸・肉用牛生産等の農業と私達の水産業が主なものです。

島の人口は、約 6,700 人ですが、漁協組合員数は正組合員 94 名、准組合員 243 名の合計 337 名で、群島内では比較的組合員数の多い漁協だと思います。

主な漁業種類は、瀬物一本釣り・潜水漁業・トビウオロープ曳網漁等です。

与論町漁協の年間取扱い量とその金額を、表-1 及び図-2 に示しています。

平成3年度の取扱い量は、シビ・サワラ等を主体に約 150 トンで2年度を上回りましたが、金額は魚価の低迷により約 1億5千万円にとどまりました。

現在、2億円を目標に頑張っているところです。

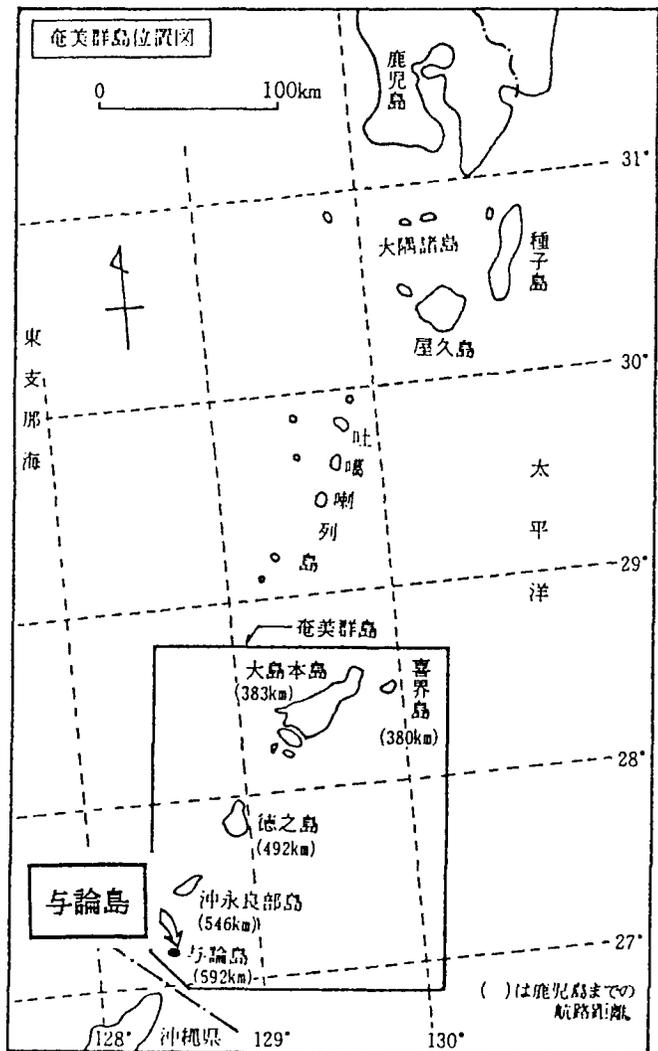


図1 与論島位置図

表-1 与論町漁協年度別取扱実績

項目 / 年度	62	63	元	2	3
数量 (トン)	137	155	164	121	148
金額 (百万円)	96	141	143	158	151

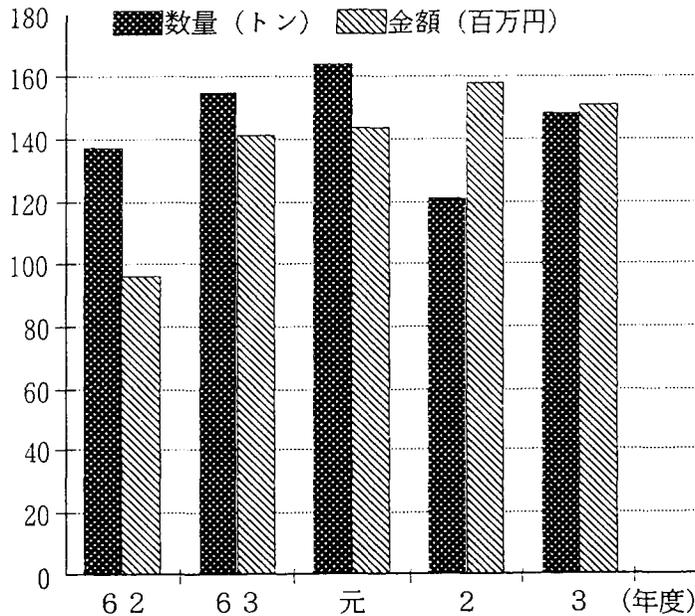


図-2 与論町漁協取扱実績

2 タチウオ釣り漁業開発の経緯

私達の与論島では瀬物一本釣りが主体となっており、私も瀬物一本釣りに従事していたわけですが、キンメやホタ等に混じってタチウオも釣れる事がありました。しかし、地元では全くと言っていいほど消費がないため（食べる習慣がなかった）、漁の対象とはならず投棄魚となっていたほどです。ところが、数年前四国方面から帰郷された方から、本土ではタチウオの値段が良く、漁業としても成り立っているという話を聞きました。

そこで、私達のグループは試験的にタチウオ針に黄色のテープを巻いた疑似針を使った曳縄釣りを試みました。その結果、ある程度の漁はあったのですが、浮きの調整等が難しく、また、くり船（サバニ）での操業は重労働であったため、再び瀬物釣りに移行しました。

そして、再び今年の2月から3月頃、瀬物釣りやソデイカ釣りの傍ら、何とかタチウオをうまく釣れないものかと試行錯誤していました。その結果、従来の曳縄を建縄に改良してみたところ、難しい調整もなく漁獲効率もはるかに向上しました。

また、ラインホーラーを使って、漁具を揚げ下げするだけなので、くり船でも充分操業出来ることが分かりました。そうするうちに、着業隻数も増加し、漁獲もまとまるように

なりましたので、4月に初めて鹿児島へ出荷してみたところ、キロ当たり 1,300 円という良い値がつき、5月も比較的価格が安定していたもので、それが引き金となって、操業隻数も一気に増加しました。

3 平成4年度漁獲実績について

表-2及び図-3に、4月から9月までの漁獲量及び金額等を示しています。

4月が約 2.2 トン、5月 7.7 トン、6月 13.4 トン、7月 9.1 トンとなっています。

また、6月には鹿児島へ出荷する魚種の中で、金額で実に 70 %を占めるようになり、与論町漁協の代表的な魚種となりました。

しかし、8・9月は急激に減少し、40 kg 以下となっています。この理由は、7月末に単価が 600～700 円台に下がったことや、ホタ等の瀬物類の価格が良くなり、殆どの人が瀬物釣りに転換したためです。

操業隻数は、4月の 10 隻から6月には 28 隻に増加しました。その頃は、1日1隻当たり平均で 50～60 kg、多い日は 100 kg 位釣る日もありました。

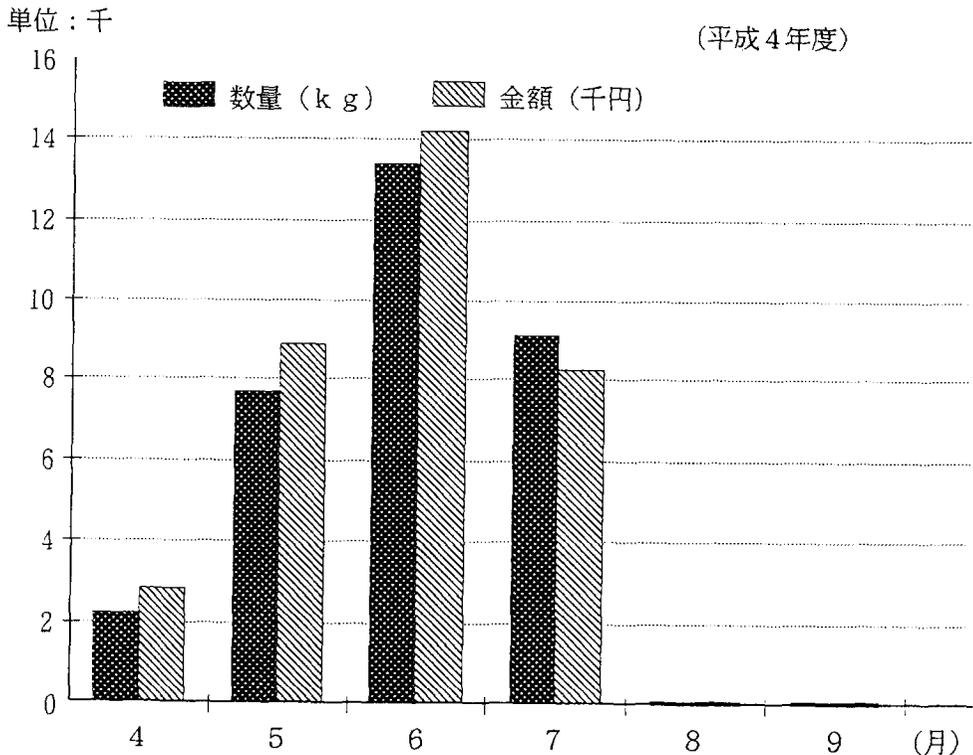


図-3 与論漁協 タチウオ 月別漁獲状況

表-2 平成4年度 与論町漁協タチウオ漁獲状況

項目 / 月	4	5	6	7	8	9	計
数量 (kg)	2,166	7,692	13,401	9,127	34	39	32,459
金額 (千円)	2,887	8,876	14,179	8,309	43	36	34,331
平均単価 (円)	1,333	1,154	1,058	910	1,267	932	1,058
着業隻数	10	23	28	24	2	2	—
延べ操業隻数	41	126	241	151	2	2	563
C.P.U.E.(kg)	52.8	61.0	55.6	60.4	17.1	19.5	57.7

※C.P.U.E.= 1日1隻当たり漁獲量(kg) = 漁獲数量 ÷ 延べ操業隻数

4 漁具・漁法について

1) 漁場

与論島東側の水深 370 m前後の比較的傾斜の緩やかな所です。本土での操業水深は、深い所でも 150 m位で浅い所では 30 m位の所もあるようです。

この点が、与論の漁場と比べて大きく違うところだと思います。

釣獲魚が 1 ~ 3 kg と本土に比べて大型魚主体であるのも、この水深の差によるのかも知れません。

2) 漁具

図-4 に概略を示していますが、幹縄は水中ライトの部分までスーパー ト 50 号で約 350 mです。水中ライトから先の枝縄を付ける部分がコーティングワイヤー 36 番で、約 18 mの長さになります。

幹縄の先端には 1.5 kg 位のオモリを付けます。これは人によって様々ですが、私の場合には φ 13 mm : 長さ 60 cm の鉄筋を 2 本使っています。

その鉄筋の約 2 m上から 1.5 m間隔で枝縄を 10 本付けます。この枝縄の数も本土の曳縄や延縄に比べれば、はるかに少ない本数です。

枝縄の長さは約 80 cm で、ナイロン 30 号が 50 ~ 60 cm、ハリスがステン 0.6 φ のナマシ線で 20 cm です。

この部分もタチウオの口の大きさに合わせて改良しました。

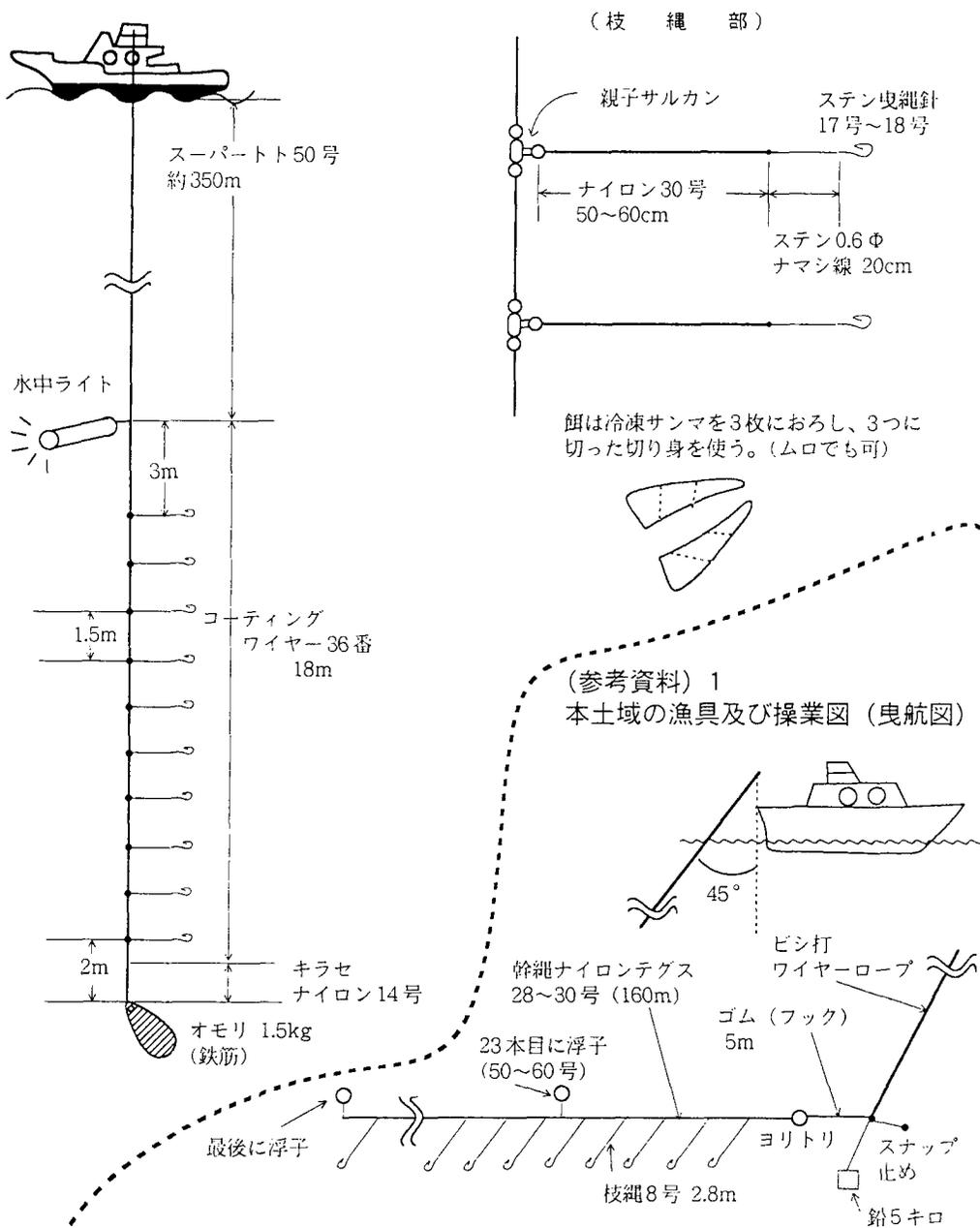
針はステン曳縄針の 17 ~ 18 号を使っていますが、タチ針より餌付けがしやすく、また、喰いも曳縄針の方が良いようです。

3) 餌

冷凍サンマを3枚におろしてそれを1/3に切った切り身を使います。餌はムロでも構いませんが、値段的にサンマの方が安いと思います。

1日の操業で70尾入りの物を1箱使います。

図-4 与論町 タチウオ釣り漁具 概略図



4) 漁法

操業時間は、早朝から夕方までで、漁場に到着したら魚群探知機で魚群を探します。カラー魚探の場合青い点で現れ、あまり海底から上へは浮き上がらず、点の間隔も比較的あいています。

操業の方法は、船上から前記の漁具を垂らし、手でアタリを取ります。

大方の場合、オモリが底に付いた時にはすぐに喰いますので、漁具を入れて底に着いたらすぐ揚げるということになります。

よって、この作業を1日何十回も繰り返すことになります。多い時は、1回に7尾位かかることもあります。平均2～3尾と言ったところですが、少なくともすぐに揚げた方が良くと思います。と、言うのはこのタチウオはかなり貪欲なようで共喰もします。ですから、長く入れておくと他のタチウオに傷つけられてしまいます。傷ものは1/2～1/3以下の値段にしかありません。

漁船の規模は、1.5～4トクラスの、殆どが一人乗りです。

また、タチウオは比較的移動範囲が広いようで、当日のポイントを探す為にも、10～20隻で集団操業をしています。

5 出荷方法及び価格について

タチウオの表皮はグアニンという物質で覆われ、以前はこのグアニンで銀箔を作ったり、模造真珠を光らせるに使われたようです。この表皮のグアニンがはげているものは古く、多く残っているものほど新鮮です。また、体も硬いものが新鮮です。

私達は、このような鮮度を保つために釣り上げる時から出荷まで、かなりの注意をはらって作業をします。鮮度保持や出荷方法にも、みんなで知恵を出し合いました。

1) 出荷方法

船上で釣り上げたタチウオは、柔らかいマットの上で数尾ずつ穴のあいたビニールに包んでから水氷に入れ、帰港後すぐに箱詰めします。地元では殆ど需要がないため100%鹿児島に出荷しています。鹿児島へのお荷の際は、ソデイカを送る発泡スチロールの箱に入れますが、その時は腹側を上にして魚体を立てて入れます。

更に、頭を揃えて尻尾が長い時は丸く曲げて入れます。大きい物は5～6尾、小さい物は2段にして10～15尾位入ります。その上にビニールをかぶせ氷を打ちます。

そのスチロール箱をコンテナに詰めて、鹿児島へ定期フェリーで出荷しますが、与論の場合は昼頃の出航ですので、操業翌日のフェリーとなります。よって、鹿児島でのセリは更にその翌日となってしまいますので、鮮度保持には特に気を使います。

2) 価格

鹿児島へ出荷を始めたのは今年の4月からですから、あまり実績はありませんが、鹿児島市場でのタチウオの水揚げ量と単価の関係を図-5と図-6に示しました。最盛期であった5月から7月の毎日の水揚げ量と単価について、鹿児島地区と与論に分けて整理したものです。

鹿児島地区内の水揚げ量は、1日数 kg から 1,000 kg で、平均 380 kg ですが、水揚げ数量が多いとやはり単価が下がる傾向にあります。しかも、400 円位から 2,000 円位までかなり変動しています。

一方、与論の方は1日 40 kg から数日分まとめて送ったりする関係で、2,000 kg まであり、平均 560 kg です。単価の方は、1,000 kg までは、やはり量が多くなると値が下がる傾向にありますが、700 円から 1,600 円位まで、鹿児島地区の物に比べると変動幅は小さくなっています。更に、1,000 kg 以上でも大体 800 円から 1,200 円位と安定しています。

また、与論の4月から9月までの月別の平均単価は 910 円から 1,330 円です。大きさ等から言いますと、傷ものは勿論安く 300 円から 800 円位ですが、1 kg 未満の小型魚は 1,000 円から 1,300 円程度です。1 kg から 2 kg の物は 800 円から 2,000 円位までと幅は大きいのですが、小型魚に比べ比較的単価は高いようです。

先ほどの鹿児島地区の物との単価の差も、この辺にあるのではないかと考えています。

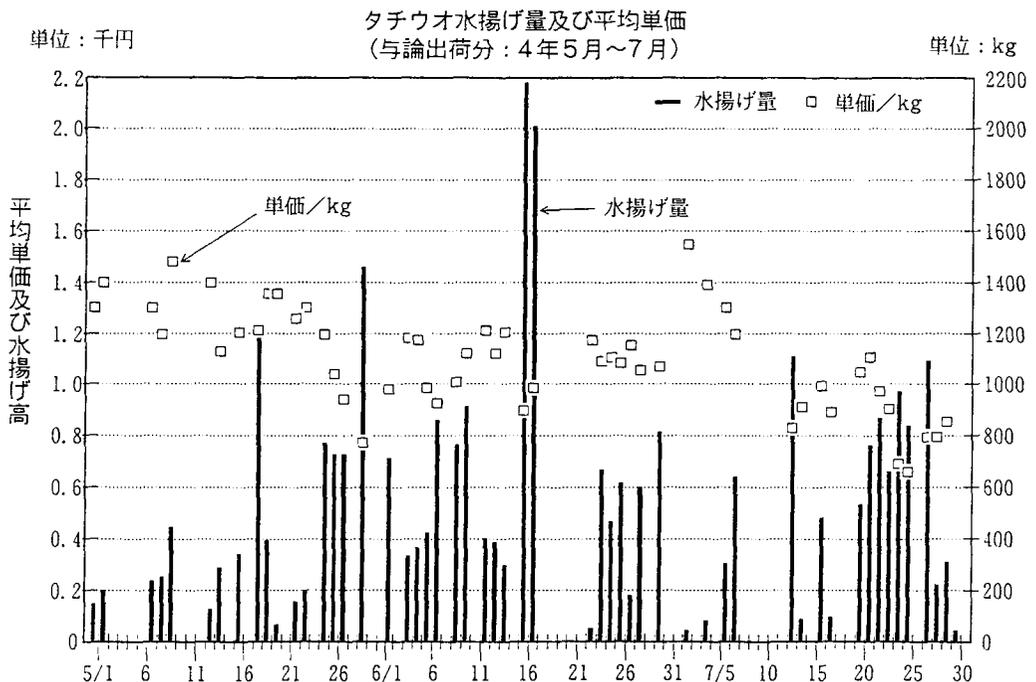


図-5 水揚げ量と単価の関係

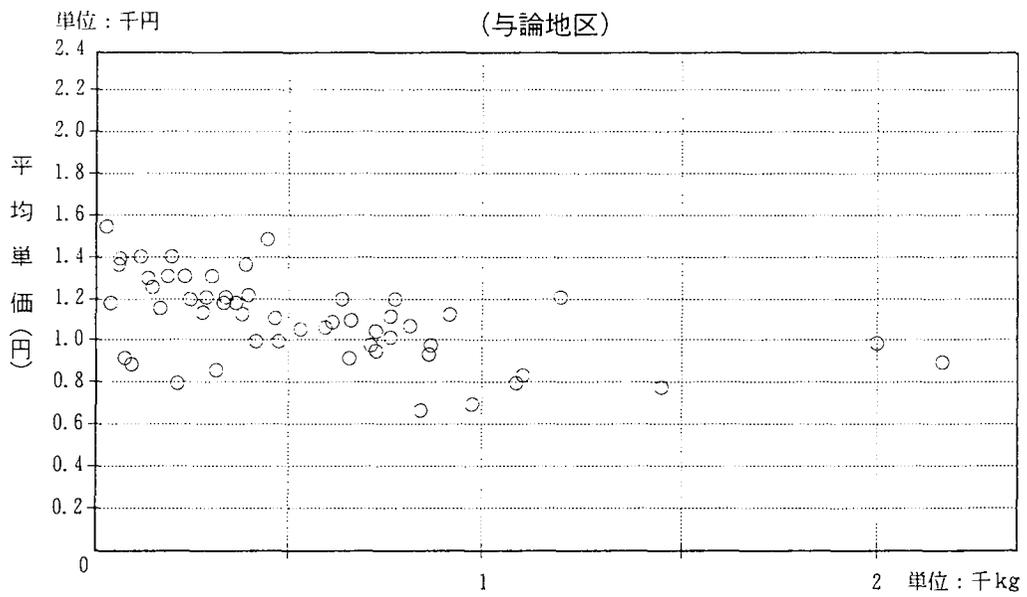
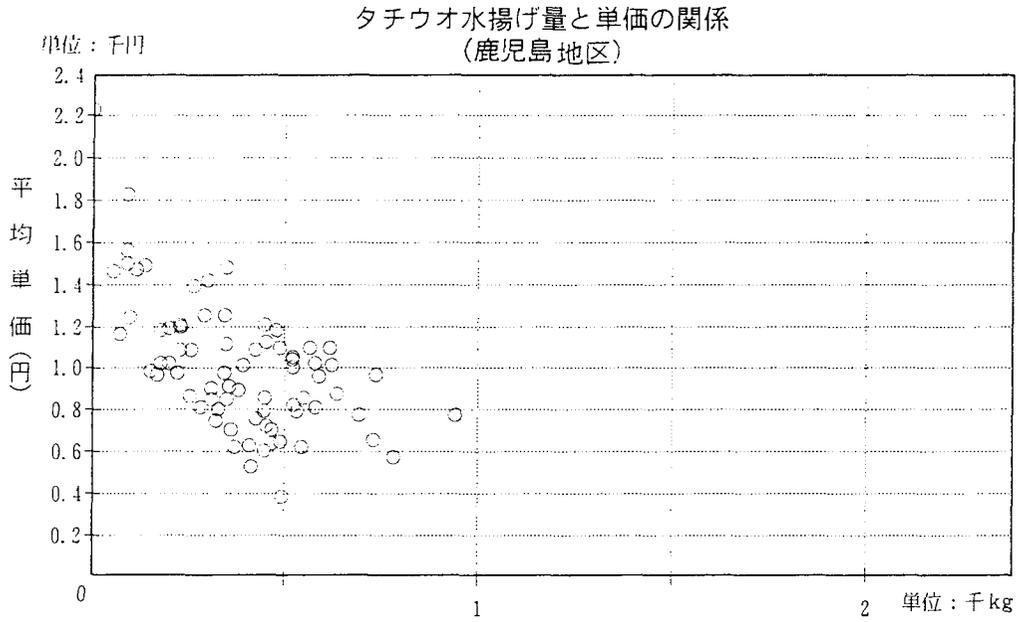


図-6 水揚げ量と単価の関係 (2)

6 今後の課題と抱負

私達の漁場では、現在大型魚が主体ですが、これは今までタチウオを漁獲対象にしていなかったため、資源的に高水準にあるためと思われます。

しかし、今後漁獲を続けていけば、他の瀬物類等と同じように、魚体が小型化し資源が減少することも考えられます。

タチウオの産卵時期や食性等の生態も、まだ全く分かっていません。そのような研究も是非必要だと思います。更に、小型魚を釣らないような漁具の工夫等をしながらタチウオ資源を守っていききたいと、考えています。

また、この漁法が広まって大量のタチウオが鹿児島に出荷された場合どうなるか、狭い漁場しかない与論はどうしたら良いのかといった危惧もあります。その際には、漁獲制限・出荷調整等を群島内の問題として、考えていく必要があると思います。

最後に、この漁具・漁法は、まだ、とても完成されたものとは思っておりません。

今回、発表することにより関係各位の御指導・御助言を頂きまして、今後群島の皆さんと一緒に発展させたいと考えております。

そして、与論だけではなく、奄美の新しい漁法として確立するよう努力したいと思っております。よろしく、お願いします。

私達の魚食普及活動

西之表市漁協婦人部 秋山多喜子

1 地域及び漁業の概況

私たちの住む西之表市は種子島の北部に位置し、東西北の三面は海に面し、南は中種子町と接しています。

西之表市漁協は昭和50年に4つの漁協が合併した組合で、正組合員402名、准組合員337名、計739名であります。地先沖合は黒潮が常に流れ、豊かな天然の曾根に恵まれ、海岸線は入江が多く、ほとんどが岩礁で好漁場が形成され、トコブシ、イセエビの根付け資源があり、黒潮に乗って回遊する魚類の豊富な漁場であります。主な漁業として、一本釣、キビナゴ刺網、曳網漁業、磯建網、トビウオロープ曳き、定置網、採貝漁業などが営まれております。

西之表市漁協の生産高は、平成元年度1,349トン、12億円、平成2年度1,413トン、11億6千万円、平成3年度1,655トン、11億9千万円と数量はのびておりますが、金額は横ばいの状態にあります。平成2年度に設置した水産物直売施設、平成3年度に設置した加工施設を活用し、魚介類の付加価値の向上が図られ、価格の安定が図られております。

また、平成5年度には種子島の3つの漁協が合併する計画が進められており、種子島漁協が設立されることにより、組合員の生産意欲も益々向上し、足腰の強い漁協ができることを期待しております。

2 組織と運営

私たちの漁協婦人部は、昭和54年に発足し、今年で13年目になります。

現在、部員は、7地区の70名で、部長1名、副部長1名、会計1名、監事2名、地区班長4名の役員9名体制で構成されています。

活動資金は、会費、組合の助成金、及びワカメ、昆布、加工品等の販売利益で賅っています。

私たち漁協婦人部は、現在次のような目標に向かって、一步一步あゆみ続ける活動を大事にしています。

- ①組織の強化と充実
- ②健康管理活動の強化
- ③魚のよさを地域に広める
- ④生命と海と魚を守るための天然石鹼普及運動

⑤協同組合運動への積極的参加

⑥他婦人部との交流

現在はこれらの目標の中でも、特に魚食普及活動に力を入れておりますが、ほかに生命と海と魚を守るための漁場保全活動、健康管理活動、漁協貯蓄目標推進事業等漁協事業への協力、販売事業等の実践活動を推進いたしております。

3 活動課題選定の動機

私たちの住んでいる西之表市では、各種の婦人団体が年一回、一堂に集まり、活動状況等を報告し合う機会があるのですが、その中で、他の婦人団体の方々は、私たちと同じ地域に住んでいながら、魚のおいしい食べ方や魚のおろし方、調理法等をあまり知らないことがわかりました。

そこで、私たち漁協婦人部では、多くの地域の住民の方々に、よりおいしく、よりたくさん魚を食べてもらうためには、まず、私たち自身が、地域の住民の皆様にも魚料理や加工品等を紹介することが必要だと考え、各種イベントで、魚料理等の実演をすることを思い立ちました。

次に漁業生産の場である、きれいな海をいつまでも守っていくことが私たちの責務であり、天然石鯛の普及啓蒙等海をよごさない運動の推進、漁業経営基盤の強化をはかるため、漁協貯蓄推進運動への協力、また、ワカメ、昆布、いりこ、天然石鯛等の販売活動により、部の活動資金づくりの取組みと、漁協婦人部ぐるみで集団検診に参加するなど、健康の維持、増進に努めております。

4 実践活動の状況とその成果

(1) 魚食普及活動

先程出た各種婦人団体との交流会は、昭和53年度より毎月9月に「西之表市婦人部の集い」が開催されているものですが、内容としては各団体が順番で3～4組ほど活動発表等をするものです。

平成3年度は、私たちの番でしたが、ただ1年間の活動報告をするだけではあまり代り映えしないということで、少し趣向を凝らしてみようと考えました。そして、いろいろ考えた末、先程言いましたように、魚のおろし方等の実演をしたら面白いのではないかと思い、役員会で提案したところ全員一致で決まり、実施することとなりました。

発表内容は、トビウオ、カツオ、コーメ（ニザダイ）の洗い方、おろし方、おいしい食べ方、また、塩干物の作り方等を役員が実演し、私が説明するといったものでした。しかし、600人ほどの参加者の前で緊張しないわけがありません。説明をしながら実演していくのですが、まったく呼吸が合いません。合わそうとすると、ますます焦りと緊張で合わなくなるのです。こうなると言うまでもありません。会場中大爆笑です。しかし、これ

がとても好評で、どんな魚食普及より効果があったのではないかと思います。

次に、私たち婦人部は、3年ほど前から、「農林水産業祭」や「ふれあい市場」等の各種イベントで、青年部と共同で海産物の製造販売をしています。製品は、青年部が取ってきたトビウオやキビナゴ、テングサ等を共同で一夜干しなどに加工しています。これらの製品は、魚食普及のために作ったもので、利益は追及していないので市販の物より安く、新鮮で合成保存料などは一切使わず、味も良いためか、とても好評で、あっという間に売り切れてしまい、イベント終了後も注文が相次ぐほどでした。平成3年度加工販売実績としては、トビウオ2,460尾 393,600円(5尾×492袋)・キビナゴ231kg 276,600円(500g×461袋)・トコロテン300個 30,000円
合計売上金700,200円でした。

さらに、私たちは、地域の農協婦人部や生活改善グループとも、お互いの料理(魚料理と農産物を使った料理)を紹介し合って交流を深めており、ここでも、魚のおいしさ、栄養価などについて理解を深めてもらっています。

それから、特にイベント等がないときでも、婦人部では、トビウオやキビナゴなどが大量に取れて市場での値段が低下したときにこれらの魚を大量に購入し、婦人部で一夜干し等に加工し、役員が中心になって、各地域の各種婦人団体の方々などに購入していただいております。この収益は私たちの活動資金としています。

これらの活動をとおして、私たち婦人部が開発した「トビウオの卵のふりかけ」や「トビウオのはらわたの塩辛」などは、現在では、西之表市漁協の商品として売り出されております。また、これらの活動をとおして、地域の人々に私たちの活動やそれに取り組む姿勢なども理解してもらおう大変良い機会にもなったと思います。

(2) 漁場環境保全活動

生命と海と魚を守るため、天然石鹼普及推進運動等を通じて部員への普及徹底を図るとともに、市の「婦人のつどい」などの場を活用してのPRと地域の皆さんに販売し、普及啓蒙に努めました。また、海を汚さない運動推進として、部員総ぐるみの海岸清掃、海岸に漂着する厄介物のスラッジ回収作業を実施しました。

(3) 漁協貯蓄推進活動

漁協と連携し、漁協信用事業への積極的な協力を行い、漁協貯蓄目標額達成運動を推進しました。

平成3年度実績147百万円

(4) 販売活動

昆布、ワカメ、いりこ、天然石鹼等を漁連から仕入れて、管内の漁村集落等に販売いたしました。

販売実績862千円

(5) 健康管理活動

健康の維持・増進を図る活動の一環として、漁協と漁協婦人部ぐるみで積極的に集団検診に参加し、受診率向上が図られました。また、学習会を開催して健康管理に寄与しました。

5 今後の活動計画と問題点

魚料理は、若い女性に敬遠されがちですが、包丁の使い方や調理の仕方などをちょっと工夫するだけで、おいしく魚を食べられるということを、私たち婦人部としてももっと研究しながら、機会あるごとに魚料理の講習会を開くなどして広めていきたいと思えます。

また、魚食普及を図るには、今、消費者から求められている調理の簡素化にも目を向けて、加工品（一次加工）の開発についても積極的に意見を出し合い、地域の人々の意見なども様々な婦人部交流を通して拾い上げていきたいと思えます。

また、先ほど申しあげました、今後の活動目標につきましても、漁村婦人の役割を自覚し、部員一同知恵を出し合い、力を結集して、漁村の活性化を目指して活動してまいりたいと存じますので、今後とも関係機関の御指導、御協力をよろしく願います。

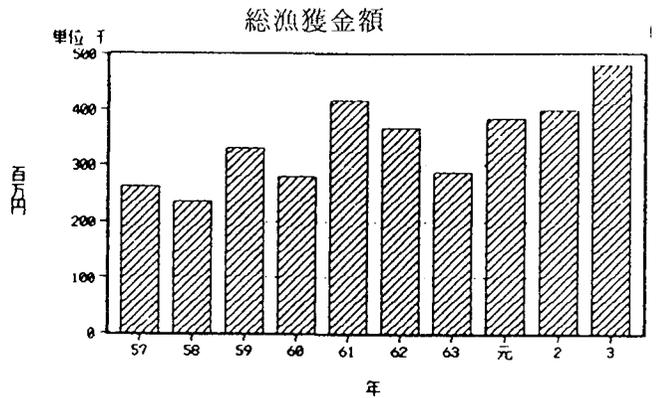
高山の魚類養殖

高山町漁協青壮年部 谷山久男

1 地域及び漁業の概要

私は、高山町漁協に所属する谷山久男です。

私の所属する高山町漁協は、志布志湾の南部に位置し海岸線が約8 kmしかありませんが、その中で組合員136人は定置網、建網、籠網、一本釣やブリ、トラフグ等の魚類養殖を営んでいます。特に定置網は、組合自営による大型定置2統と個人経営による小型定置4統、ます網12統があり、組合員の9割は定置網に関係するという定置網への依存度が非常に高い地域です。志布志湾にはアジ、イワシ、ブリ、トラフグ等、時期的に沖合から回遊して来る魚群とキス、コチ等、湾内で成長する魚群がありますが、高山町沿岸の地先は岩礁に富み、肝付川の影響もあって志布志湾の中でも特に好漁場になっています。高山町漁協の年間取扱高は、ここ数年は増加傾向で平成3年度は約1,632トン、4億8千百万円です。



2 就業までの経緯

私は、大工の仕事を10年間修業し、その後独立して4年間請負の仕事をやっていました。当時は、順調に仕事も入っていたのですが、少し景気も悪くなったので、この機会にもう少し建築の勉強をしようと思い専門学校に通いました。そのかたわらで、暇ができると叔父がやっていた養殖場で、餌をトラックで運んだりハマチに餌をやったりして手伝っていました。昭和58年、私が27才の時でした。

私の叔父は、イケス3台にハマチ8,000尾、ブリ1,000尾を飼っていました。規模としては非常に小さなものですが、当時はハマチの値段が良く、病気もなく、その上エサ代も余りかからなかったのでかなり利益があるようでした。

叔父の仕事を手伝いながら毎日魚を見ていると、日毎に大きくなる魚の成長に驚き、エサをやる前に自分に寄って来る魚たちに愛着さえできました。初めての経験でありましたが、この仕事は苦労も多いが一生懸命やれば、その分良い品物を作ることができるし、何とかなるのではないかと、自分の性格にも合っているようで魅力のある仕事だと感じました。この様ないきさつで建築業から養殖業へ転業したわけですが、やればやるだけ良いも

のでできるという点では、今までやってきた家造りとよく似ています。

3 高山の魚類養殖について

高山地区で魚類養殖が行われたのは、県下でも遅く昭和50年に3経営体、イセス15台で始められました。最初の発端は、定置に入るカタクチイワシをカツオ釣りの活き餌として販売するための蓄養からです。その後52年に県から正式に養殖漁場が免許され、養殖業者10人がハマチ、ブリ、トラフグ、雑魚等の養殖を始めました。この年の生産量は約1千万円でした。

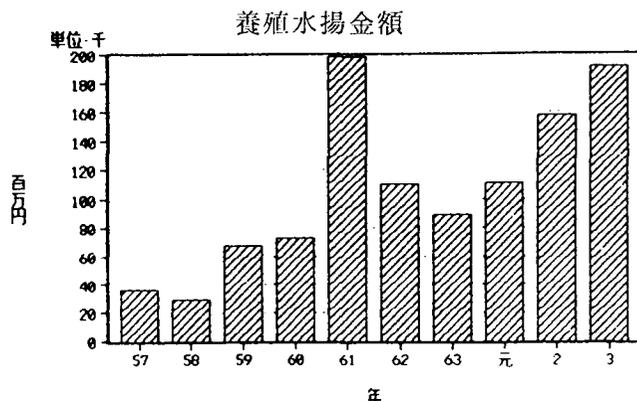
その後、順調に生産量も伸び漁協としても将来の有望な漁業として期待していたところが、昭和57年に台風による被害を受け、水揚げも減少し高山の養殖が初めて試練に立たされました。翌年、今まであった2箇所の養殖場を1箇所に整理し、県や町の御努力によりイセス48台が安全に係留できる強固な共同係留施設が出来上り、本格的な養殖への取り組みが始まりました。

この年、私は養殖を始めました。反対する父を説得し、資金をどうにか工面して3台のイセスにハマチ5,000尾、カンパチ5,000尾からスタートしました。自分の魚だ、と思うと毎日のエサやりも楽しく、力がいりました。周りの人のやり方を見たり聞いたりして技術的には不安はありませんでしたが台風の事がやはり心配でした。

また、この年、19の経営体がこの施設を使って養殖を始めました。これを機会に養殖業者会が結成され、養殖技術の研究、種苗配布などの協議や水産試験場に來ていただき魚病学習会等が行われる様になりました。

一方、漁協では構造改善事業を取入れ61年に餌料用冷蔵施設、62年にモイストペレット用造粒機を整備し、資金面でも改善資金や近代化資金等の導入を図り全面的にバックアップしてくれました。そのおかげで毎年生産量も順調に伸び、平成3年度の生産金額は1億9千万円で高山漁協の総水揚げの約40%を占めるに至っています。

高山における養殖の特徴は、定置網に入る種苗を利用することです。私も今までトラフグ、ネイゴ、シマアジ、オオニベ等、定置網に入る種苗を養殖してきました。トラフグはスレに弱い



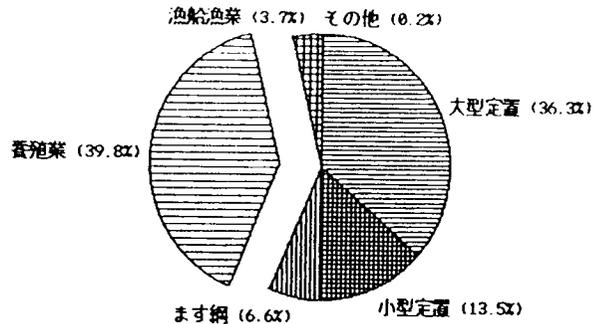
事もあって敬遠されていましたが、試験的に初めて私が養殖したところ成績が良く、その後高山でも普及しました。トラフグは5月に200～300gの大きさの物が取れますが、これを養殖いたしますと年末までには1～1.1kgになります。下関の南風泊市場での評価も高く天然物と同等に近い値が付きます。ネイゴは5月に50gの物が、1年半後の年末に3～3.5kg、シマアジは6月に10gの物が、2年で1kg、オオニベは5月に300gの物が1年半後に4kgに成長します。

私が養殖に取り組んで今年でちょうど10年になりますが、現在15イケスにブリ、ハマチ、トラフグ、マダイを4万5千尾、飼育しています。出荷の時は妻と父に手伝ってもらい、網の入れ替えの時は5人程人を雇いますが、後は1人で毎日やっています。養殖開始当初は、船外機でエサやりに行っていたので何かと不便でした。その後、2トン、4トンと船を大きくし、イケス台数も毎年2台ずつ増やしていきました。平成元年に5トンのエサ船を、ペレットと投餌機をつけて2千万円で購入し、今では少々の日にも休みません。

朝7時に漁協の冷蔵庫から冷凍イワシをフォークリフトで出し、カッタにかけて船に積み込みます。漁場までは10分、あとは投餌機で餌を撒くだけです。機械化されているので、ほとんど力を使うようなところはありません。しかしフグのエサやりだけは根気があります。ブリやハマチの様にエサにとびかかってくるような事はなく、ゆっくり気の向くままに食べるので、それにつき合っていると作業が終わるのは5時頃になります。昼の弁当も海の上でとります。話相手もなく1日黙っていると、時々変な気分になることがあります。しかし人にまかせず毎日魚の顔を見ることが、魚を飼う上で最も大切なことだと思っています。

このようにして少しずつ規模拡大を図りながら順調にやってきたのですが、高山の養殖にとって2回目の危機が訪れました。またしても台風による被害です。忘れもしない平成2年9月29日、台風20号が大隅地域を襲撃し係留施設を根こそぎに全てのイケスが流失しました。ハマチ2万5千尾、ブリ7万尾、カンパチ4万尾等の被害3億2千万円、イケスと係留施設の被害1億5千万円、合計4億7千万円の災害でした。不幸中の幸いと申しますか、私のイケスは5台がなんとか助かりました。しかしそれでも6千万円の被害です。

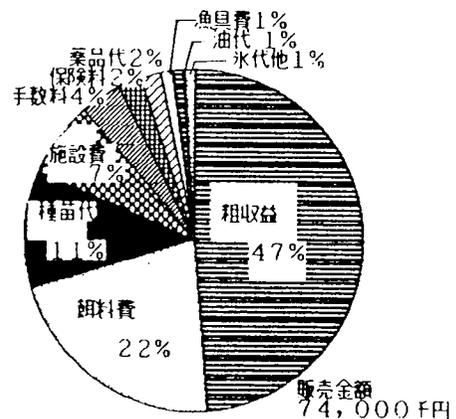
平成3年度の水揚げ金額割合
総水揚げ金額(4億8千万円)



その日、午後になっていっそう雨足が強くなったので養殖場の様子を見に出かけたのですが、横殴りの雨が激しく途中、車も前に進むことができず、近くの波見まで来て引き返えしました。次の朝、父から電話があり、父が見ている間に一瞬にして流されたことを知らされました。電話を取りながら体から血の気が引き、足がガタガタ震えてきました。父は前の日に解っていたのですが、心配して次の日に連絡してくれたのです。台風が去った後、浜に打ち上げられたイケスの後片付けや残った魚のエサやりに忙しく、1日もボーとしている暇などありませんでした。しかし今後の事を考えると夜も眠れない日が何日かありました。

組合長を交え業者会が何度かもたれ再建について検討がなされました。やめて行く人もありました。高山の養殖はもう駄目だろうと周りから見られる中、今回も漁協の全面的支援で再び立ち上がるべく計画が立てられました。多額の借金を抱え皆不安がありましたが、前に進むしか方法はありません。陸の仕事ではとても取り返しができません。海に流したものは海で取り替えすしかありません。1からの出直しが始まりました。幸いなことに翌春、定置網に例年のないトラフグの種苗が大量に入り、新しく完成した係留施設を利用して養殖しました。その年はトラフグの売値も7,500円/kgと高値で、私の水揚げも5千万円程ありました。何とかこれで少しは息がつけ、養殖業者にとって幸先の良い再建1年目の年となりました。

昨年度の私の経営状況は図の通りです。私は密飼いせず、病気を出さないようにエサの鮮度等にも日頃気を付けていますが、経営上から言って、自分の作った魚を必ず買ってくれる売り先を確立しておくことが、最も重要なことだと思います。そのためには売った魚に責任をもち、相手先からいつも信用される製品をつくる努力が、必要であると思います。



4 今後の課題と計画

生産過剰や水産物の輸入、バブルの崩壊などで魚価は安く養殖経営はきびしい状況にあります。またマイワシが減っているとの事で、これからエサのことも心配です。

これまでは人に負けたくない。この道で成功して、男になるのだ。と頑張ってきました。大工の見習いの時にたたき込まれた職人氣質一本で、今まで規模拡大を図ってきたのですが、今度の台風ですすがに少し気持ちが小さくなった様に自分でも感じます。台風による危険度をなくすため、浮き消波施設ができれば良いのになー。と思うこともあります。

これ以上の規模拡大は労力的に1人では限界です。人を雇いたいが、なかなか人もいない状況にあり、いろんな事を考えると今後どの様にして行こうかと、現在迷っています。とりあえず、地の利を得たトラフグ養殖に力を入れ、歩留りを良くしてロスがないように育て、品質のよい高山ブランドの確立を図りながらこのきびしい環境を乗り切りたいと考えています。

この様な舞台で、皆様に発表できるような内容のある実績発表ではありませんでしたが、高山の養殖が今までいろいろと苦労してやってきた実態を知っていただき、これまで御協力いただいた関係機関へ感謝を申し上げますと共に、今後とも絶大なる御指導、ご鞭撻の程をお願いして、私の発表を終わらせていただきます。

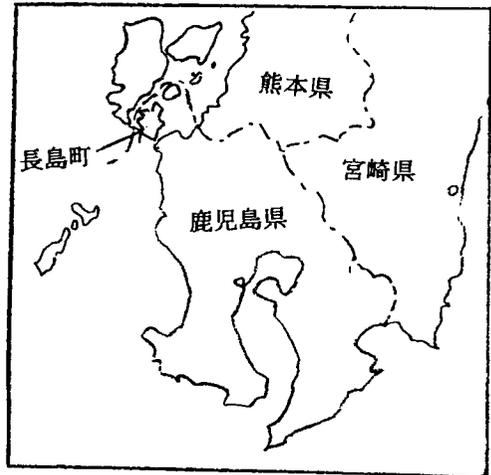
チームワークで花嫁さん獲得

長島町漁協青壮年部 吉川秀記

1 長島町漁協の概要

長島は鹿児島県の北西端に位置し、長島海峡をはさんで、熊本県の天草下島に面している。島の東側が東町、西側が長島町となっている。(図1)

(図1) 位置図



昭和49年に黒之瀬戸大橋が完成し、さらに平成2年には、その橋が無料化され、すべての産業や生活面で大きな恩恵を受けた。

長島町漁協は、正組合員235人・准組合員212人・計447人からなり、主な漁業はゴチ網、中型旋網、刺網、一本釣、採介藻漁業とブリ養殖となっている。平成3年度の系統利用水揚げは、約8億9千万円である。

私は昭和47年、20才の時に父母の営む吾智網と磯建網漁業に従事するため大阪よりUターンしてきた。現在では弟とともに吾智網と磯建網漁業を営んでいる。

(表1) 長島町漁協の受託販売取扱高

品目		取扱高			
		2年度取扱高		3年度取扱高	
		数量	金額	数量	金額
生鮮魚貝類	鮮魚類	17,795 kg	76,110,629 円	21,579 kg	105,436,197 円
	ウニ類	2,663	22,585,883	1,168	13,386,188
	海藻類	33,672	22,573,804	17,424	17,614,699

品 目		取 扱 高			
		2 年 度 取 扱 高		3 年 度 取 扱 高	
		数 量	金 額	数 量	金 額
生 鮮 魚 貝 藻 類	アワビ類	1,567kg	11,267,200 円	1,621 kg	11,868,298 円
	魚類養殖	417,759	278,737,467	428,917	404,273,323
	青物類	0	0	1,103,680	30,087,753
	他港水揚	3,427,658	312,966,875	3,430,754	293,850,809
海藻類加工品		30,417	22,560,325	26,550	13,951,869
合 計		3,931,531 kg	746,802,183 円	5,032,143 kg	890,469,136 円

(漁協総会資料より＝系統利用分のみ)

2 漁協青壮年部の概要

長島町漁協青壮年部は、昭和62年3月26日に発足した。40歳以下の漁業青壮年を対象とし、発足時の会員は58名であった。

1人3,000円の会費と、漁協より20万円の補助を受け、視察研修や産業祭への参加等の活動を始めた。

その後、3県連絡架橋の早期実現と魚食普及のため、63年からイワシフェスティバルの開催や、イカ資源増殖のため元年からイカシバ設置、また平成元年には水産技術研修大学を受講する等、年々活動を広げてきた。

私は結成以来、副部長として活動してきたが、平成3年に部長に選任され、部員に助けられながら青壮年部の活動を軌道にのせるよう、努力してきた。

平成3年度の活動実績及び収支決算書は表2、表3のとおり。

(表2) 平成3年度活動実績

年 月 日	実 施 事 項	実 施 事 項	場 所
3年5.20	役 員 会	イカ追跡調査について、他	漁 協
5.31	イカ追跡調査	水イカの産卵状況調査	汐見,唐隈
6.12	役 員 会	トコグ稚魚放流について、他	漁 協
6.22	女性勧誘(交流会)	京セラ・日本電気	川内,出水
6.28	第5回通常総会		休養村センター
7.9	トコグ稚魚放流	トコグ稚魚 15千尾(無償)	茅 屋
7.9~12	新規漁業就業者研修	漁船漁業コース(基礎講座)	鹿児島市
7.19	役 員 会	花嫁対策について、他	漁 協
7.22	花嫁講習会	「外国人から見た日本の男性」	休養村センター
7.28	女性との交流会	魚釣り,バーベキュー, (女性9名)	蔵之元
8.17	夏まつり	即売(魚, ジュース)	町グラウンド
9.25~26	現地研修会	県民生協との意見交換会	串木野市
10.15	役 員 会	フットボール大会について、他	漁 協
10.22	北薩地区フットボール	他青年部との親睦を深める	阿久根市
11.17~18	海と山との交流会	鮮魚, 海産物の即売	大分緒方町
12.2	役 員 会	産業祭について 他	漁 協
12.8	産 業 祭	鮮 魚 即 売	休養村センター
4年2.20~21	先進地視察研修	イカ活魚出荷視察(高串漁協)	佐賀県
3.9	第5回イカフェスティバル	魚食の普及と消費拡大を図る	町役場前
3.17	イカシバ設置	イカ類が産卵できる藻場造成	汐見他5ヶ所

(表3) 平成3年度青壮年部収支決算書

収 入

(単位：円)

科 目	予算額(円)	決算額(円)	摘 要
会 費	126,000	126,000	42名×3,000円
助成金	430,000	430,000	漁協(イカガ)設置,放流経費を含む)
補助金	250,000	250,000	長島町(後継者育成)
活動収益	50,000	37,428	夏祭り, 産業祭
負担金		170,000	研修個人負担 17名×10,000円
雑収入	1,000	1,806	利 息
前期繰越金	280,136	280,136	
合 計	1,137,137	1,295,370	

支 出

(単位：円)

科 目	予算額(円)	決算額(円)	摘 要
研 修 費	400,000	386,230	視察研修
会 議 費	100,000	116,390	総会, 役員会
活 動 費	480,000	509,372	花嫁対策, 他
旅 費	20,000	16,000	
役員報酬	70,000	70,000	
負担金	40,000	27,500	漁青連会費
雑 費	27,136	39,145	ハガキ, コピー等
合 計	1,137,136	1,164,637	

(青壮年部総会資料より)

3 花嫁対策への取り組み

こうした中で、部員の中に独身者が多いので、「何とかできないだろうか」という話が持ち上がってきた。そして、新聞等で笠沙町や屋久島で花嫁さがしの交流会が行われていることを知り、長島でも企画できないかと検討を始めた。（現在の青壮年部員の年齢構成は表4のとおり）

幸い町でも後継者育成事業として取り上げてくれることになり、平成元年の8月に第1回の花嫁対策交流会を開催することになった。

当初、交流相手として近隣の大企業（出水市NEC，川内市の京セラ等）を考えていたが、既に他のグループと交流会を行っていたりして、うまくいかなかった。そこで、なんとかしようと、様々なつてを頼って女性を集めた。初年度は釣り好きの病院の先生にお願いして、病院の職員を誘ったり、漁協職員の兄弟の勤務先の女性を誘ったりして、7～8名の独身女性の参加があった。交流会は魚釣り、

グラスボート遊覧、ブドウ狩り、海水浴場でのビーチバレー、スイカ割り、カラオケ、バーベキュー大会と盛りだくさんの行事を企画した。

交流会そのものは、たいへん楽しかったが、それ以上に嬉しかったのは、初年度にもかかわらず、カップル1組が誕生したことだ。部員は26才・相手の女性は25才のカップルだった。

これに勢いを得て、毎年交流会を開いているが、毎年1組ずつ計3組のカップルが誕生した。昨年も7月26日に開催し、1組が現在交際中だったが、昨年末に結納を取り交わし、後は式を待つだけとなった。

また3年度は交流会の前に花嫁対策講習会を水産普及所と共に開催した。スポーツクラブ経営のバーバラ植村女史と、フリーアナウンサー山野真理女史に、外国人からみた日本の男性について講演して頂いた。日本人は遠慮しがちだが、女性も実はスキンシップを待っているということで、実技指導を受けたりして、まことに楽しい会になった。せっかくの講習会を長島だけで開催するのはもったいないので、普及所より近隣の漁協青年部に参加を呼びかけていただき、東町、黒之浜、阿久根の各青年部からも参加者があった。

この経費の講師の旅費や謝礼等については、県漁連総務指導室や長島町、東町の各漁業後継者対策協議会より援助を頂くことができ、感謝で一杯である。

（表4）青壮年部員の年齢構成

年 齢	部員数	内未婚者数
20代	15名	6名
30代	22名	11名
40代	1名	0名
計	38名	17名

4 花嫁対策交流会

さて、その花嫁対策交流会の内容だが、昨年は以下の企画で実施した。

7月26日(日曜日) ○9時30分 長島町蔵之元港集合

○9時40分 開会式

○10時 漁船4隻に分乗してアラカブ(カサゴ)釣り

○11時30分 昼食の準備を兼ねて、魚のおろし方の実演を女性を交えて行う

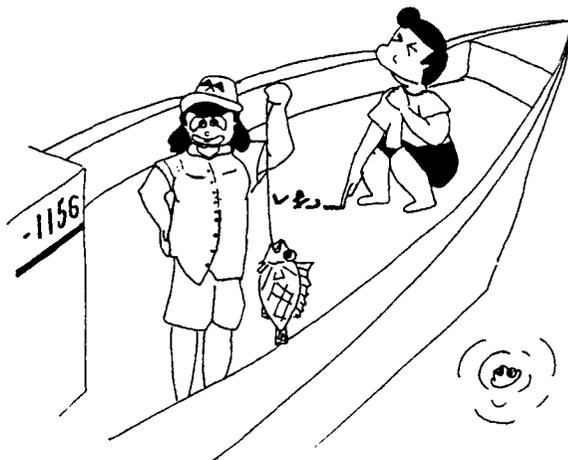
一緒に作ったアラカブの味噌汁とカレーで昼食

○13時 海水浴場で海水浴、スイカ割り、水上バイク

○15時30分 着替えを兼ねて温泉へ

○17時 バーベキューによる交流会

○19時 すべての日程終了



当日の日程は以上だが、その前に水上バイク、昼食やバーベキューの器具や食器、材料の調達、漁船、釣り具の手配など、部員が手分けしての準備がなかなか大変だ。特に食事については、せっかく来てもらう女性に、自分達のとったうまい魚を食べてもらおうとはりきって調達する。幸い部員には魚類養殖から、吾智網、刺網、潜水漁業者までいるので、刺身やアワビなどで豪華な食事となっている。

こうして、各地の団体がいろいろな交流会を開いても、なかなかうまくいかない中、3組のカップルが誕生するという好成績を納めることができ、苦勞のしがいがあった。

その理由はいくつかあると思う。まず交流会終了後、事務局がかならず参加してくれた女性に電話し、感想を聞いて次年の参考にしている。例えば初年度の感想として、案内のチラシに水着持参と書いてあるのは、下心見え見えだと言われたので、遠まわしな書き方に直したり、スケジュールがきつかったと言われたので、行動を簡素化し、移動を少なくした。

次に、行事を魚釣り、魚料理、水上バイク等、自分達の得意な分野に絞って行っている。特に2人乗りの水上バイクは、お互い水着になってスキンシップもできて解放的になり、楽しく、ざっくばらんに話ができるようになって好評だ。都会では交流会をパーティー形式で行うという話を聞くが、着飾った女性とは、なかなか打ち解けて話が出来ないので、漁協青年部には向かないと思う。



また交流会で一番難しいのは女性の参加者を集めることだが、私達は先にも述べたとおり、初年度から毎年、つてを頼って集めている。今年は大口市のカラオケ同好会の皆さんが、長島に観光で来られた折、青壮年部とカラオケ大会を開いたのをきっかけとして、その方々から声をかけていただき、大口市から5名の参加者があった。他にも毎年部員の奥さんの友達、友達の友達などをお願いしている。役場が中心となって交流相手を探してくるところもあるようだが、どうしても大企業の女性が義理で来たり、単に、ただで遊べるから来るという場合が多いのではないだろうか。またそうした場合、結婚はまだ先だと考えている若い女性が多く、かえって話がまとまりにくいのではないだろうか。こちら側の心構えとしても、役場任せと言うより自分達で相手をさがすという積極的な気持ちが必要だと思う。もちろん相手探しだけでなく、交流会の企画、運営も青壮年部が主体になって行っている。ただ、職場へお願いに行くときは、役場の担当者同行していただいたり、開会式には組合長に挨拶して頂くなど、相手に安心感を持ってもらう気遣いは必要と思う。

また、あまり多人数になると男同志、女同志で集まってしまうので、手頃な人数にすることも必要と思う。ちなみに私達は毎年女性7～8名と、男性10～15名程度で行っている。

さて、交流会になって気に入った相手がいたら、独身の先輩に遠慮することなく、若い部員もどんどん積極的にアタックすることも必要と思う。先輩、後輩に気兼ねがあるとこれはなかなか難しいだろうが、私達は日頃の活動を通じて部員の和、チームワークがたいへん良いため、若手部員も伸び伸びと活動していることが良い結果になっていると思う。

また、先輩に気兼ねしていると、いま20代の部員もすぐ30代になって独身者が増えるばかりなので、年齢にはこだわらない方がいいと思う。年齢といえば、まとまった3組の内の2組は姉さん女房だが、男女間の年齢にもこだわらない方がいいと思う。

5 今後の課題

ただ、30代の独身部員が、なかなかまとまらないのは今後の課題である。最近では都心のエリートサラリーマンも結婚難であると聞いている。マザコンのテレビドラマがはやるなど、女性が強く、男性が弱くなっていることも一つの原因だといわれている。その点、我々は海の男、陸の人とは違うたくましさを持っていると自負している。しかし女性と接する機会が少なく、共通の話題がなかったりするのが、うまくいかない原因の1つだと思う。

今後、回数を重ねる内に少しずつ、女性との接し方も、上手になることを期待している。

また2年続けて参加する女性がないことも課題である。会終了後に話を聞くと、来年も参加したいと言いながら、2年続けて来ると、「まだ売れ残っている。」と思われるのがいやで、なかなか来れないようだ。こちらとしては続けて来てくれた方が話もし易いので、決してそのような考えはないのだが、なかなかうまくいかない。

さらに既婚部員がしゃべりすぎて、若手部員にからかわれることもある。最初、既婚部員は裏方に徹しているが、場を盛り上げようと表舞台に出て、かえってひんしゅくをかうのも御愛敬というところだ。

6 まとめ

ゴールインした組に話を聞くと、一回限りの交流会ではだめで、何人かのグループで、もう一回会ってから話が進みだす人が多いようだ。独身の人だけでなく、時に既婚者が機会を作って、自ら参加したりして独身部員をサポートすると、相手も安心してかえってうちとける様である。今年も大口市まで5~6人で遊びに行ったりしたようだ。

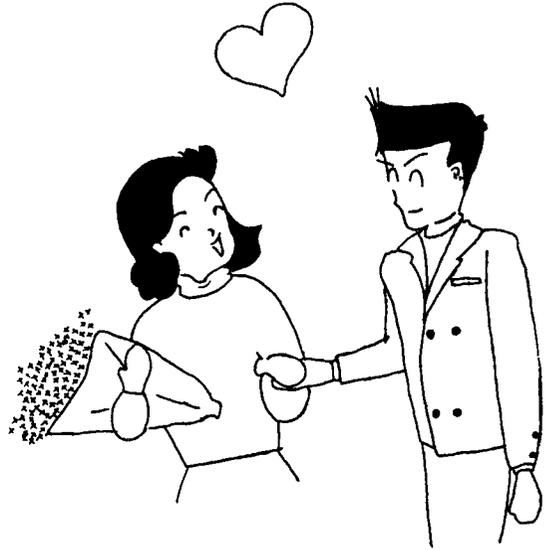
とにかく交流会は、良い出会いの場を作る事が大切で、あとは本人次第だ。ただ、その場作りのため、他の部員が上手にサポートするのは、日頃チームワークを大切にして活動してきた成果だと思うし、毎年とにかく明るく楽しい交流会になっている。そしてこのことが、これまでの花嫁さん獲得につながっていると思う。

交流会がきっかけで結婚した女性に話を聞くと、最初軽い気持ちで遊びにきたら、部員が親切で、なにからななまで一生懸命なのが印象的で、好感を持ったようだ。ただ漁業に対しては、これから魚が少なくなるのに生活していけるか不安だったようだ。しかし部員の「良い時も悪い時もあり、苦勞するかも知れない。しかし決まった給料で平凡な生活を

しては味わえない楽しみもある。
そして、これからの漁業は獲るだけでなく、獲った魚をいかに高く売ることが大切で、まだまだ将来性はある」という前向きな言葉を聞いて、結婚してもいいと考えるようになったそうだ。

このように、日頃から誇りを持って仕事をするのが大切だと思う。漁船漁業も養殖漁業も決して3Kではなく、陸の仕事にはない喜びを味わうことができるという自信を持って女性に接してこそ、女性にも魅力的に映ると思う。

これからもこうした自信を与えてくれる長島のきれいな海に感謝する謙虚な気持ちを忘れず、いつまでも守っていくことを部員全員の決意として、今後も活動していきたい。



1. 地域及び漁業の概況

私の所属する江口漁協は、日本三大砂丘の一つである吹上浜の北部に位置し、温泉と焼きものの町東市米町と品質の高い日置瓦で名高い日吉町の2つの町にまたがっています。(図1)

江口漁協は、正組合員160名、准組合員117名、計277名の組合員からなり、定期的に産卵又は越冬或は索餌のために、西薩海域に米遊する多くの魚類を対象とした機船船びき網、刺網、流刺網、ごち網、小型底曳網、かご網等の多種多様の漁業が行なわれています。漁協の

年間水揚げ取扱高は、平成3年度872トン、10億2,300万円となっています。(図2)

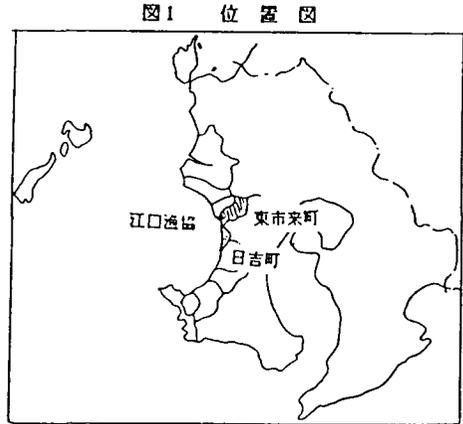
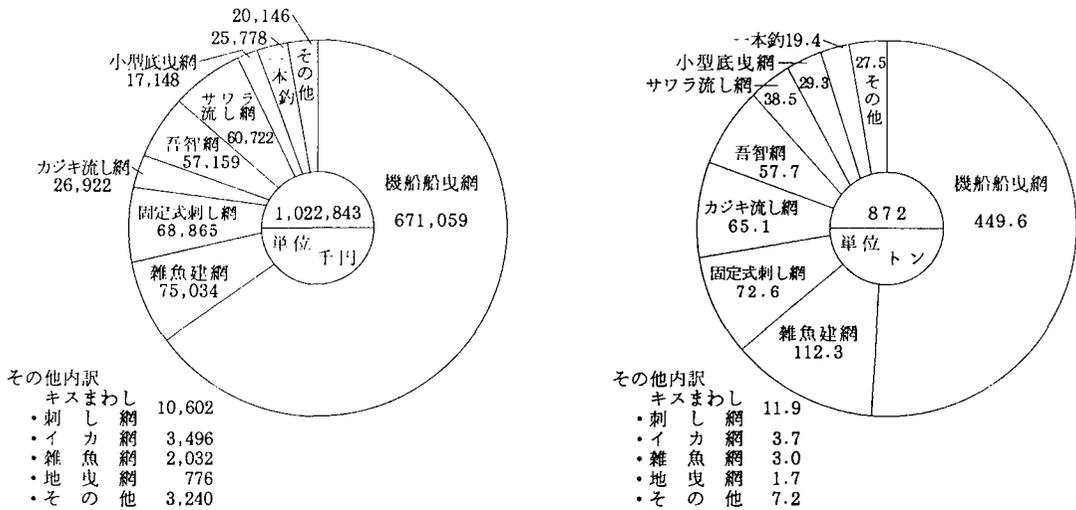


図2 平成3年度漁業種類別漁協水揚



2. グループ組織と運営

私が所属する青壮年部は、昭和53年に漁業技術の研究と親睦を目的として結成され、現在部員は14名です。

主な活動は、情報交換と親睦のための定例会をはじめ、先進地視察、ふた月に1回の港内清掃、漁協等が行なう各種行事への協力等で、その運営費には、会費と町及び漁協からの助成金を充てています。

そこで、私が現在行っている網漁業の中の主な漁業についてお話しします。

まず、ごち網は私の主力漁業で、4月から11月までの期間に、魚礁に寄ってくるタイ類やハギ類を対象としています。

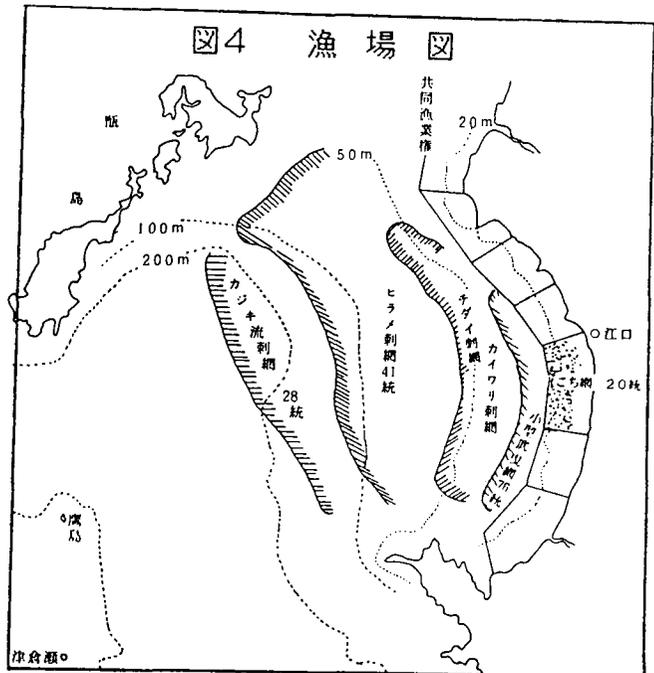
漁場は図4のとおりで共同漁業権漁場とその沖合3,000 mまでの範囲であり、漁具は網地がテグスで、袋口の目合が8節のものを使用しています。なお、近年、ハギ類の資源が著しく減少し、又マダイ資源も減少傾向にあります。

チダイ刺網は、ごち網と同様の操業期間で、ごち網の漁模様をみながら、その合間に操業し、時々ごち網を操業した後の夕方或はその前の朝方にも操業しており、そのための漁具は常に船に積み込んでいます。漁具は網糸がテグスの2～3号で目合は2.8寸です。

バショウカジキ流網は8月から10月の操業期間で、漁場は薩摩半島から瓶島間の水深100～200mのところですが、漁具は、当初網地にアミランを使用していましたが4年前にテグスに変えています。テグス網がアミランに比べて良い点は、潮切りが良いため潮の流れが少々早くても網が潮に吹かれて浮き上がることが少なく、透明性が高いので魚のかかりが良いことと、網のよじれやからみがないので、網さばきが楽なことです。しかし、この漁業は年によって漁獲変動が大きいので安定した漁業ではありません。

ヒラメ刺網とサゴシ流網は11月から3月までの同じ操業期間ですが、操業時間帯が、ヒラメ刺網は午前中で、サゴシ流網は夕方から24時までと異なるため、同じ日に支障なく操業しています。ヒラメ刺網は網地がテグスの3号で、目合いは4.5寸目と5寸目の2種類で、比較的水深が浅く小型魚の多い共同漁業権内は4.5寸目を、水深が深くなり大型魚が多い共同漁業権外は5寸目を使用しています。

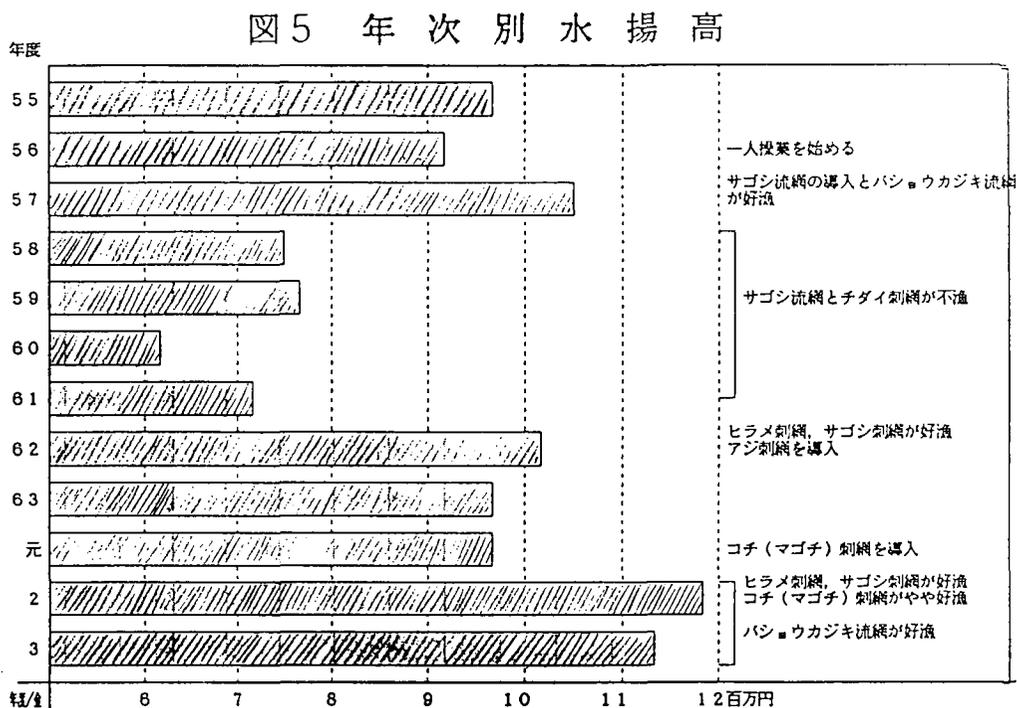
サゴシ流網は、昭和57年に導入した漁業で、漁具は6年前に網地をアミランからテグスに変えており、網糸が5本合せの7.5号で、目合いが3.2寸、3.3寸、3.4寸目の3種類の網を交互に連結して使用しています。



サゴシの魚群は、昼間は海域に広く散らばっているが、夕方から朝方にかけては、餌の
 小魚の多い漁場集まるので、この時をねらって操業します。操業は、サゴシ曳網との調
 整で朝方を禁止し、夕方から夜中の12時までとしており、投網に当っては、全船がほぼ
 同一漁場に集中するので操業時のトラブル防止のため、網は必ず南北に流し、網の北側の
 端には赤灯を、南側の端には白灯を設置し、どの網がどこにどのように入っているかを皆
 が一目でわかるようにしています。

以上が私の主要な漁業ですが、その他にアジ刺網、コチ（マゴチ）刺網、ウチワエビ刺
 網を行っており、これらは、従来主要漁業の水揚が伸びないため、年毎に増やしてきた
 漁業であります。

このように現在幾種もの網漁業を組合わせていますが、昭和56年から一人操業で取組
 んできた組合せ漁業による年次別の水揚状況をみますと図5のとおりです。



55年、56年と900万円台であった水揚が57年に1,000万円強となったのは、
 この年にサゴシ流網を導入したのとバシ・ウカジキ流網の漁が良かったためであります。
 58年から61年にかけては水揚が500万円台から700万円台に減っていますが、こ
 れはサゴシ流網とチダイ刺網の不漁によるものです。62年から水揚が回復し、その後ほ
 ぼ順調な水揚げをしています。これは、サゴシ流網が好漁であることと、新しい網漁業を
 更に組合せてきた成果によるものです。

また、年間の組合せ漁業における月別の水揚状況を平成3年についてみますと、図3のとおりで、秋期から初夏にかけては、産卵或は越冬のため来遊する各種の魚群量が安定しており、平均的に水揚が良いが、夏場はその逆で、水揚は極端に落ち込んでおり、この時期の対策が今後の大きな課題であります。

このような組合せ漁業は当地区の特徴で、機船船曳網を除く漁業者の全てが行っており、個々の漁業形態は、それぞれの漁船規模や乗組員数或は年齢、体力などにより異なっています。当地区で行われている漁業種類は、現在10種類に及んでいますが、これらの漁業は地区の漁業者が競争意識を持ち、お互いに情報交換しながら、西薩海域に來遊する魚種と魚群の動きを研究し、これに対応した漁具、漁法の開発に努力してきた成果であると思っています。なお、これらの幾種類もの漁業が、限られた漁場で競争して行きますと、操業上のトラブルや資源の乱獲をきたすため、江口漁協においては、毎年各種漁業者協議会を開催して、操業区域、操業期間、網目等の自主規制をするとともに、ヒラメ、マダイの稚魚放流を行って、円滑な操業と資源の保護育成に努めています。一方私達青壮年部では、働くだけでなく、身体を休め、家族がふれあうことも大事であるという考えから、当漁協ではまだ実施していない定期的な休漁日について、昨年4月から毎月第3日曜日を自主的に休漁日としています。

4. 今後の課題

私達が、漁船漁業で将来にわたって安定した漁業経営を行うためには、資源を維持しながら有効に利用することが大事であります。そのためには、魚体が小型化し、資源的にも減少傾向にあるマダイやヒラメを初めとする有用魚の回復のため、稚魚の放流や保護区域の設定、操業期間や体長の制限を更に強化するとともに、漁獲物の活魚販売により魚価向上を更に図ることが大事なことであると思います。また、同一漁業での集中漁獲を避けるため、或は夏の漁閑期対策として、県外船が操業しながら地元で操業していない、タコつぼ漁業やその他の一本釣等の導入を図る必要があると思っています。

なお、当地区においては漁業者の後継者が少なく高齢化が進んでいます。後継者が生まれないのは、漁業が重労働で、収入の面でもそれに見合ったものが得にくいことなどで、他の職業に比べ魅力を感じられないためと思われるのですが、私達青壮年部の全んどは、Uターン者で、漁業の魅力を皆知っている連中でありますので、ここで私達が頑張って若い漁業者が魅力を感じ、希望を持って、私達の仲間に入ってこれるような“ゆとりと楽しみのある漁業づくり”に努めていきたいと思っています。

図6 年次別漁協水揚

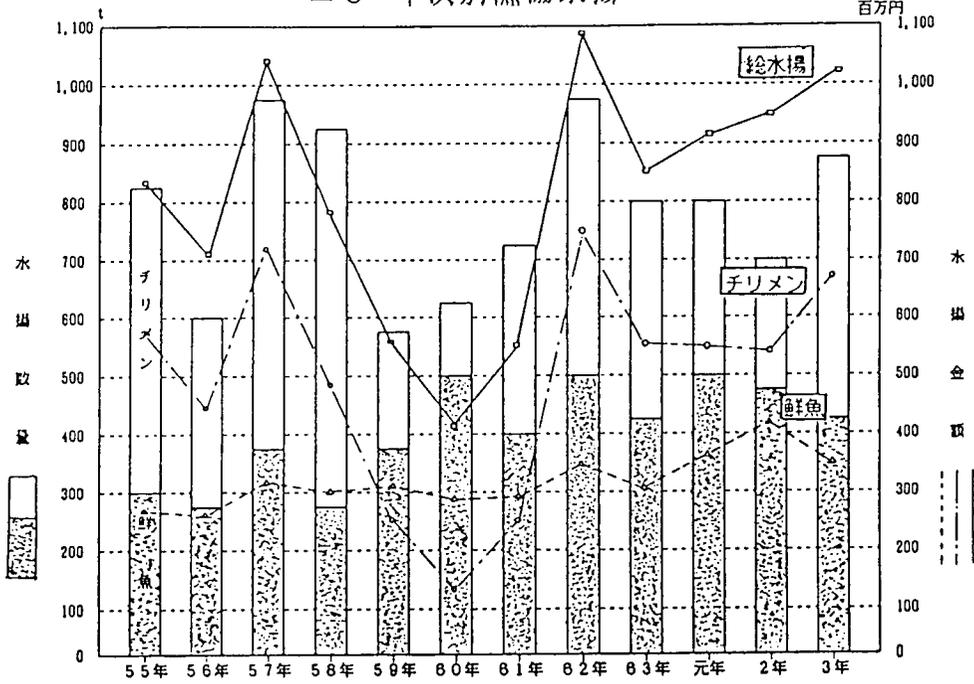
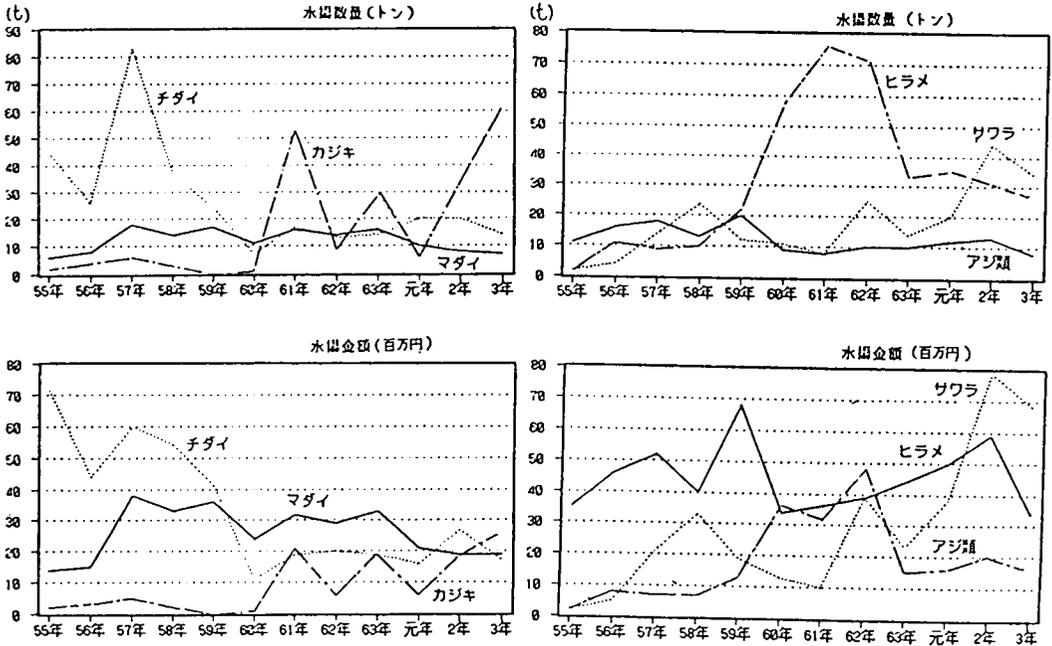


図7 年次別魚種別漁協水揚取扱高



漁業後継者として

マダイ一本釣り漁業に取り組んで

久志水産振興会 高尾義人

1 地域及び漁業の概要

私が住んでいる坊津町は、薩摩半島の西南端に位置しており、東シナ海に面し、古くは、中国との交易港として、また、リアス式海岸の風光明媚な町として知られています。しかし、三方を山に囲まれ、交通の便も悪いことから町内には三つの漁協が存在し、私の属する久志漁協は、その真ん中にあります。

久志漁協は、正組合員46名、准組合員169名で組織されています。営まれている漁業は、定置網、養殖漁業、磯建網、キビナゴ刺網、瀬魚一本釣りです。ここ5年間ほどの年平均水揚げ金額は、1億円余りです。この内、一本釣り漁業は、生産量、生産額とも20パーセントを占めます。

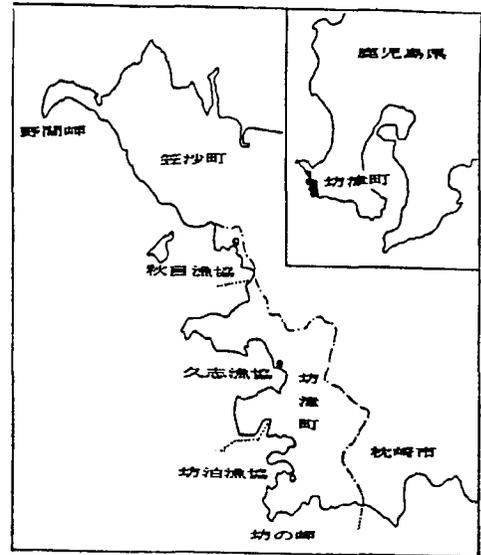


図1 久志漁協位置図

2 水産振興会の活動

久志水産振興会は、昭和53年に一本釣り漁業者を主に会員の技術向上、親睦を目的に結成され、現在、16名で運営しています。主な活動として、イカシバの設置、浮漁礁の設置、視察研修、漁港清掃、密漁監視等を行っています。

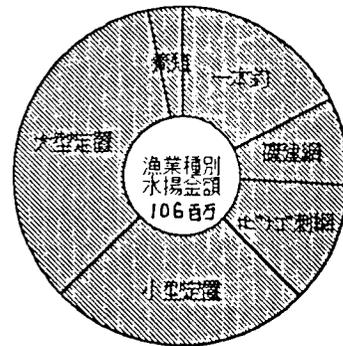


図2 久志漁協漁業種類別水揚げ (平成3年度：漁協資料)

3 マダイ一本釣り漁業に取り組んだ動機

私は、地元高校卒業後、県外に汽船乗組員として就職していましたが、平成2年6月、家庭の事情により久志に帰郷しました。帰郷後は、適当な就職先がないため、父親が所有していた1.59トン、13馬力の漁船を使用し、漁業に従事することにしました。父親は、刺網漁業を主体とした操業をしていましたが、私は、当初組合員でもなかったため、一本釣り

漁業に取り組むこととしました。漁業については、子供時代に父親の手伝いをしてきた程度の経験しかなかったため、久志水産振興会に加入し、友人、仲間に漁具、漁場について教わりながらの漁業の開始でありました。

しかし、幸運なことには、振興会に加入してすぐの平成3年2月に、振興会の視察研修があり、阿久根市漁協でタイタグリ釣りを研修する機会に恵まれました。講師の方の熱心な指導と、親切にも見本の道具までいただいたことから、早速、久志に帰ってから仲間3人と実践しました。久志地区では、近年タイ釣り操業をする漁業者もおらず、タグリ釣りに関しては、他の仲間も初めての経験で手探り状態での開始でした。しかし、三日目には一尾のみではありましたが、2kgのタイが漁獲でき、この後、本格的に取り組む決意ができました。

4 一本釣り経営の経過

漁業に取り組んでまだ2年足らずの私に、この場で発表できるような技術があるわけはありませんが、この一年余り、冬季にはタイ釣り、夏季にはイサキ釣りの操業を行っていますので、現在まで漁業後継者としてどの様に取り組む、今後を考えているか述べようと思います。

1) 漁具の概要

図3は、タイタグリ釣りの漁具の構成で、阿久根で研修したものと同一です。道糸にはテトロン15号、ビシヨマ50メートル、ハリス10メートルを使用します。鉛は30匁、鉤はタイ鉤20号を使用します。餌には活エビを使用し、シーアンカを利用するのがポイントのようです。

図4は、夏季に使用しているイサキ釣りの漁具構成です。これは、久志地区で一般的に使用されている天秤釣りで、餌にはオキアミを使用しています。

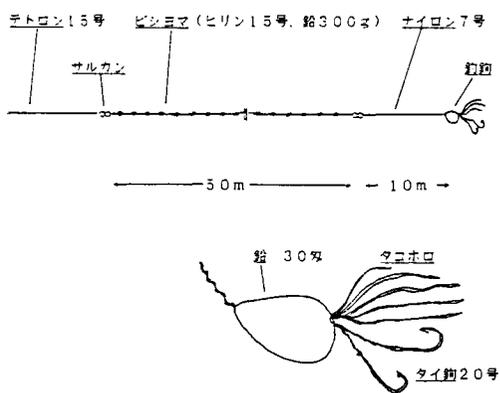


図3 タイタグリ釣り漁具図

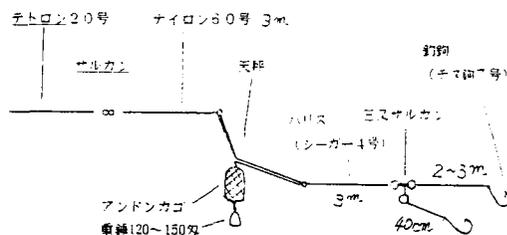


図4 イサキ釣り漁具図

2) 漁獲の状況

図5は、平成3年1月～平成4年10月の私の水揚げ金額の推移を示したものです。

平成3年2月に研修を行い、その後3月～5月マダイ釣りを実施しました。平成4年は、1月～5月に実施しています。夏季の6月～8月は、イサキを対象とした操業を行います。その後9～12月はイカ釣り、アジ等の夜釣りを行っています。

平成3年一年間の水揚げは、2百万円少々でありました。平成4年度は、10月までで4百万円程度と倍増しました。マダイ釣りの期間は、一月50万円程の水揚げができましたが、その他の期間は20～30万円程となっています。

3) マダイ釣りの現況

マダイ釣りの操業状況を述べますと、漁場は、野間岬の南～坊津町沖合い域、距岸3マイル以内の水深90～130メートルで、魚探反応を見ながら瀬の際で道具をいれます。シーアンカを入れ、潮流れし、道具を15～20メートル程度たぐってはおろす作業を繰り返します。使用する道具は、船が小さいこともあり、一組です。

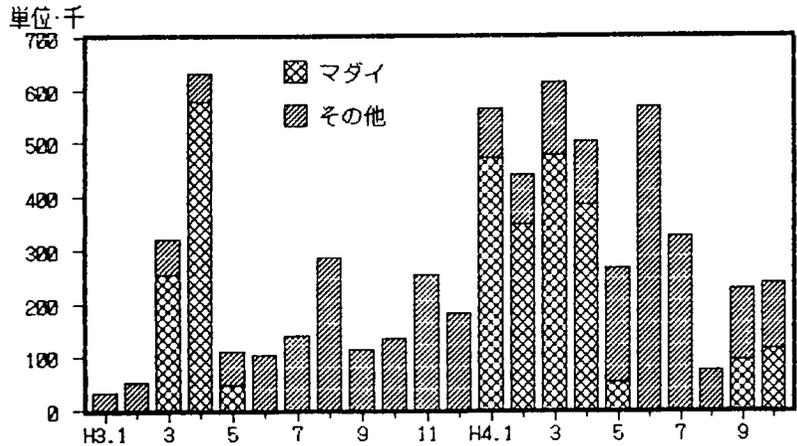


図5 高漁丸の水揚げ金額の推移 (H.3.1~H.4.10)

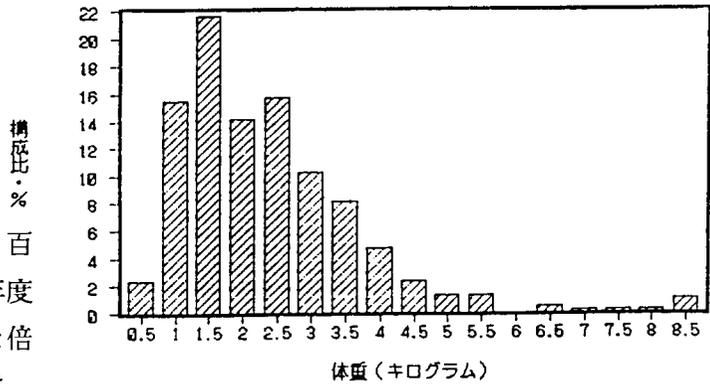


図6 漁獲マダイの体重組成 (%)

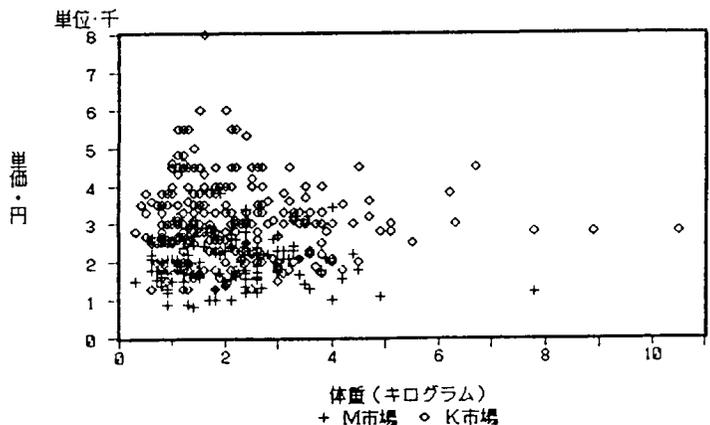


図7 マダイ体重と1Kg当り単価

平成4年度のタイ漁獲状況を見ると、魚体1～2キロのものが多く800キロ程漁獲しました。

出荷先は、鹿児島と枕崎の市場で、運搬前にシメて出荷します。単価は、2千円～5千円、平均2700円程度ですが、図7に示すように、変動幅が大きく市場による差もみられました。

マダイは、5月になると漁獲量が下がることと、餌エビが水温の上昇や降雨のため死ぬことから、6月からは、イサキ釣りに変更します。また、11月からは水温も下がり、餌エビは活きますと思いますが、平成3年は、エビが入手出来ませんでした。

4) 経費の概要

漁獲経費についてみますと、私の場合最も多いのが餌料代で、タイ釣りの活きエビも、イサキ釣りのオキアミ、パン粉も同じで一月6～7万円かかります。次に出荷が鹿児島、枕崎市場ですので、どちらも市場手数料、運賃合わせて水揚げ金額の1割かかります。その他、燃油代、水代、漁具代で一月1万5千円程かかります。平成4年月平均40万円程水揚げをしていますので、それで計算してみますと水揚げの約28パーセント程が上記経費にかかっています。

5 今後、漁業を続けるについての問題点

私は、これまで述べましたように漁業者としてはまだ、初心者であります。今後地元で生活する限り、漁業で生計を立てねばなりません。そこで、今後漁業を続け生計を立てるためには、より安定した高収入を図る必要があります。このため、現在かかえている問題点を述べてみます。

1) 1年間通して安定した漁業を組み合わせる

私の場合、1月～5月のタイ釣り、これに続く6月～8月のイサキ釣りはある程度漁獲もあり、今後もこのまま続けようと思います。しかし、9月～12月はこれと言って取組む漁業がまだ見つかっていません。そこで、キビナゴ刺網の導入や、他の高級魚、例えばヒラメ釣り等の導入を考えています。今年は、後ほど述べますが、11月以降、活エビの確保ができたため、タイ釣りができました。

2) タイ釣りの活エビの確保

私のメインの漁業と考えているタイ釣りに関しましては、餌の活エビ確保が問題となります。当初から鹿児島市の漁連、釣具屋さん等にいろいろ手配をして入手しましたが、十分な量を必要なときに確保することができません。そこで、平成4年10月中旬には、水産振興会の視察研修目的を餌エビの流通と言うことにし、普及所の世話で熊本県の一漁協に研修に行きました。その後、その漁協に行けば、ある程度確保できるようになりました。このエビの入手に当たっては、私の場合、振興会の仲間3～4人共同で購入しているため、

熊本県にでも出向いての入手が可能ですが、一人ではどうにもならなかったと考えています。

エビは購入後、船の活け間や港内の小型生簀で活かしますが、5月以降10月までは、高水温や大雨等で全滅したりします。このため、陸上で水温調整ができるような、エビの貯蔵水槽が欲しいと思い、検討しているところです。

3) 漁船の購入

これは、私についてだけの問題と言えますが、現在使用している船は小型（1.6トン）で老朽化（16年）しているため、刺網の導入や漁場の拡大が困難です。このため、4トン程度の漁船を購入したいと考えていますが、蓄えが在るわけでもありませんので、そのほとんどを借入金に頼るほかありません。そこで、現在の水揚げ状況、経費、生活費などを考えますと、漁船の建造、購入には二の足を踏んでいます。私のように、これから新しく漁業を開始する者に、漁船の建造、購入に関しても無利子の制度資金が利用できればよいと考えています。

4) グループとしての活動の強化

私が漁業を続けようと決心したことについては、久志水産振興会の活動が大きなきっかけとなりました。すなわち、振興会の視察研修でタイグリ釣りに出会い、今年の研修では、活エビの確保が出来るようになりました。また、活エビの購入をタイ釣りを導入した3～4人共同で実施しているほか、当初から漁場、漁労技術に関する情報を交換してきました。このため、経験の浅い私が漁業で生きる決心ができました。

今後も、餌の共同購入は必要ですし、協力して漁場開発、技術の改良をしたいと思えます。また、漁協の協力を得ながら、餌の共同保管や、出荷体制の整備等を検討したいと考えています。今後とも関係の皆様のお協力のもと、漁業を続けていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

